

生物多様性に関するオンライン啓発活動

－ 御影高キノコ部チャンネル！ －



実施担当者 兵庫県立御影高等学校
教諭 大西 伸弥

1 はじめに

生物多様性の大切さに関して、特に SDGs が採択されて以降、授業や部活動をとおして生徒や地域住民に啓発する機会が増えた。本校周辺は典型的な都市型環境である。しかし背後には六甲山があり、動植物の豊かな生態環境が見られ、生物多様性について考えるには最適な環境である。

本校環境科学部（通称：キノコ部）は六甲山に生えるキノコの多様性をとおして、生物多様性の大切さを地域住民に啓発する活動を行って 12 年が経過した。しかしながら、昨年度は新型コロナウイルス感染症流行のため、多くの展示会などが中止や規模の縮小を余儀なくされた。このため、展示会の来場者数も例年と比べると激減し、十分な啓発活動を行うことができなかった。このような状況下でも啓発活動が行えないか模索したところ、「オンライン展示会」という意見が生徒より提案された。そこで、今年度、本校環境科学部は ICT 機器を活用したオンライン啓発活動を中心に活動した。

2 オンライン啓発活動

2-1 動画制作準備

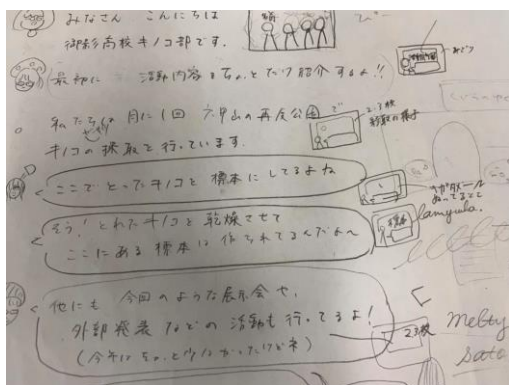


図1 台本の写真

オンラインによる啓発活動としては、①Twitter による活動②Instagram による活動③YouTube による活動の 3 種類を想定した。①と②は既に実施していたため、今年度は③YouTube による活動に重点を置いた。まずは、YouTube に「御影高キノコ部チャンネル」を登録・制作した。

YouTube 投稿用の動画を制作するため、まずは台本を作製した(図1)。台本にはセリフやカット割り、注意点などが書き込まれ、全員に共有された。また、共有された台本を手直しし、よりよい動画になるよう様々な工夫を取り入れた。

2-2 撮影・収録



図2 撮影の様子

台本に基づき、撮影を進めた。カメラはビデオカメラを使用することもあれば、コンパクトデジタルカメラを使用することもあった。また、スマートフォンを使用することもあった。1カット撮影を終えると動画をチェックし、台本に沿って撮影できているか確かめながら撮影を進めた(図2)。

最初の方に制作した動画では、映像と音声を同時に収録することも多かった。しかしながら、音声がかすんで収録できなかった、音声が聞こえない、雑音が入ってしまうなどというトラブルが何度かあった。このため、映像と音声を別々に収録し、後日編集でつなぎ合わせるということも行った。

2-3 編集



図3 動画編集の様子

撮影した写真は Adobe 社の Photoshop elements を使用して加工した。動画や収録した音声は同じく Adobe 社の Premiere elements を使用して編集した。また、動画に挿入するイラストは iPad アプリの Procreate を使用して制作した。さらに、動画中の BGM は生徒が iPad アプリの GarageBand を使用して作曲した。

コンピューターを使った動画編集(図3)は、部員全員が経験のないものであった。最初は短時間の簡易的な動画を制作することで、動画編集ソフトなどの使用方法を手探りで会得した。そのため、最初の方に制作した動画は、写真に BGM と字幕を付けただけのものであった。その後、先輩や周囲の方々に動画に対する

コメントをいただき、改良を重ねた。また、自分たちでも、いわゆる「人気 YouTuber」の方が制作された動画を制作者側の視点から研究し、「なぜこの動画の再生回数が多いのか」、「なぜこの動画は面白いのか」、「なぜこの動画はわかりやすく見やすいのか」などを自分たちなりにディスカッションを繰り返し、自分たちの動画にフィードバックした。

2-4 SNS による公開



図4 御影高キノコ部チャンネル

動画内容	再生回数(3/1現在)	公開日
キノコ部活動紹介	581	6月19日
7・8・9月のキノコ1	232	6月27日
7・8・9月のキノコ2	135	8月1日
7・8・9月のキノコ写真	141	8月31日
胞子紋	108	9月15日
7・8・9月のキノコ3	91	9月30日
展示会紹介	108	10月26日
10・11月のキノコ	88	11月13日
キノコ総選挙	132	1月6日

表1 YouTube 投稿動画一覧

図4はYouTube「御影高キノコ部チャンネル」のスクリーンショットである。3/1現在、登録者数は73人である。

表1は御影高キノコ部チャンネルで公開した動画内容、3/1現在の再生回数、公開日をまとめた表である。3/1現在、公開動画数は9本、総再生回数は1616回である。また、現在制作中の動画は2本あり、今年度中に公開する予定である。

YouTubeなどのSNSを使用することによって、展示会に足を運んでくださった方だけでなく、全世界に対して啓発活動が可能になった。12/26に東京工科大学で行われた科学教育助成成果発表会の時に、何人もの方に「YouTube観ました」と言われ、改めてSNSによる発信力に驚かされた。また、YouTubeにはニューヨーク在住の日本人の方がコメントをくださり、世界に向けて情報を発信しているという実感が湧いた。

2-5 反省と課題

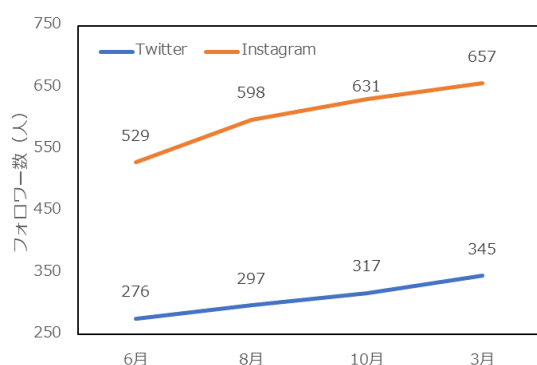


図5 SNS フォロワー数の推移

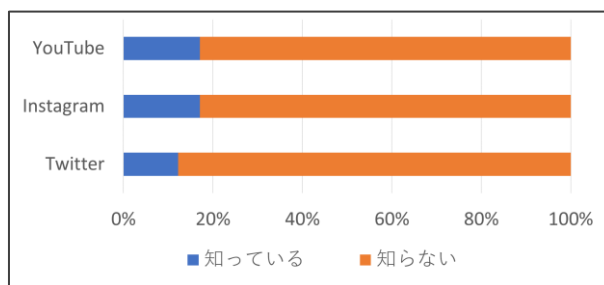


図6 キノコ部 SNS 知名度調査結果

図5はキノコ部のTwitterとInstagramのフォロワー数の推移を表す。フォロワー数は右肩上がりに増加している。しかし、YouTubeのフォロワー数は73人となかなか思うように伸びなかった。また、TwitterやInstagramのフォロワー数から考えると、キノコ部TwitterやInstagramをフォローして下さっている方が必ずしもYouTubeを再生しているとは限らないと考えられる。図6は11/23に行った展示解説会で参加者に対して行ったアンケート結果である。「キノコ部のSNSを知っているか」という問いに対してこのような結果が得られた。このグラフから、キノコ部SNSの知名度は20%以下で、あまり世間に知られていないということがわかった。

キノコ部のSNSを知っていただくため、今年度は①展示会で配布するパンフレットにキノコ部SNSのQRコードをつける②展示会やイベントで部員から呼びかけるという2つのことを行った。①に関しては行うことができたが、②に関しては不十分であった。理由として、昨年度に続いて今年度も緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令され、活動に制限が多くかかることとなったことが挙げられる。今年度も複数のイベントが中止となり、例年の半数ほどしか実施できなかった。このことによって、生徒から直接SNSのことを宣伝できる機会が減り、思うように知名度が上がらなかったと考えられる。来年度はSNSの宣伝にも力を入れたいと考えている。

また、YouTubeのチャンネル管理の機能として、視聴者分析ができる。この機能を利用して視聴者を分析すると、継続して観てくださっている方が減少していることがわかった。継続して観ていただけるよう、視聴者に興味を持っていただける動画を発信し続けたいと考えている。

今年度は動画編集用コンピューターを1台購入し、作業を進めた。学校には動画を制作できるスペックのコンピューターはないため、この1台のみで作業を進めることとなった。そのため、実際に編集作業をできるのは1名であった。動画の編集作業には想定よりも時間がかかり、3分程度の動画を制作するのに2週間ほど必要であった。動画編集用コンピューターが複数台あれば、作業効率も上がり、1つの動画の制作にかかる時間も短縮できる。しかしながら、予算的な問題で現在のところ動画編集用コンピューターは増える予定はない。また、現在のところ部活動で購入したコン

コンピューターや iPad は学校のネットワークにつなげることができない状態にある。インターネットに接続できれば、ファイルを共有しながら効率的に様々な作業ができると考えられる。このようなハード面やネットワーク環境が次年度以降の課題となっている。

3 まとめ

昨年度より、新型コロナウイルス感染症流行のため、例年行っていた啓発活動が行えなくなった。そこで、緊急事態宣言下でも、また、展示会に足を運んでくださった方以外にも啓発活動ができるよう、今年度本校環境科学部は ICT 機器を活用したオンライン啓発活動を中心にして活動した。

この試みによって、日本国内だけでなく全世界に向けて情報を発信することができた。今年度 YouTube に投稿した動画は 9 本で、総再生回数も 1600 回を超えた。オンライン啓発活動をすることによって、動画編集技術だけではなく、計画力、表現力などの「見せる力・伝える力」が生徒の身についたと考えている。今年度単年だけではなく、来年度以降も従来の活動に加えて、オンライン活動を行いたいと考えている。



Twitter



Instagram



YouTube

謝 辞

上記の活動は、公益財団法人中谷医工計測技術振興財団様の科学教育振興助成によって実施することができた。この場をお借りして感謝申し上げます。

以上